

『現代教育論』について

授業のサブタイトルは「教育と臨床の心理学」である。講義の内容は、非行、校内暴力、管理主義・体罰、いじめ、不登校、神経症、対人不安、抑うつ、アパシー、世界の教育、大学入試過熱、大学の一般教育、就職、大学院といったテーマである。

学期の最初に、学生の興味についてアンケートをして講義内容を決め、シラバスを作成して配布している。また、学期の最後には、授業評価の時間をとり、学生の授業への評価を求めている。

私の専門は臨床心理学であり、こころの悩みのメカニズム（精神病理学）や対処法（認知行動療法）を研究している。「臨床心理士」の資格を持っているので、それを生かして、学生のいろいろな悩みの相談にのりたいと思っている。「オフィスアワー」といって、一定の時間を学生からの相談や質問に割り当てているので来てほしい。

また、学期中に何回か、臨床心理学や教育心理学のいろいろなアンケート調査をおこない、学生にボランティアで参加してもらっている。調査結果については、学生に集団でお知らせし、さらに個人的にも結果を知らせている。個人的な結果を聞いて、自己理解を深めてほしいからである。

さらに、私の研究室の臨床心理士をめざす大学院生と「駒場心理臨床相談室」を開設し、そこで精神的な悩みの相談にのったり、心理テストをおこなったりもしている。

「現代教育論」の受講生は各学期 600 名くらいであり、大講義室でおこなっている。この科目を始めた 1993 年当時は、1000 名近く受講した時もあったが、それでは教室に入りきれないので、2 名の非常勤講師をお願いして、受講生の分散をはかった。その結果、最近では、ほぼ 600 名の規模に落ち着いている。

『現代教育論』履修案内・シラバス 2013 年度 冬学期 火曜 4 限

丹野義彦

1. オフィスアワー (学習アドバイス)

学期中の金曜4限をオフィスアワーとし、特別の用事がない限り、教育学研究室に待機しますので、この時間帯は講義やレポートに関する質問や相談などを受けつけます。

教育学研究室：2号館 1階 107A 直通電話：5454-6265

Eメール ctan@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/tanno/>

2. 学生相談所協力委員を金曜4限にやっています。

3. 講義中の私語はつつしんでください。

大教室では、一部の人の私語によって講義が聞き取れなくなります。ごく一部の人の私語によって、多くの人が迷惑します。例年のアンケートでは、6割以上の人が、私語に対して怒りや不快を感じ、私語をする人の退出を要求しています。他の受講者の邪魔になる場合は、教室から退出してもらうことにします。

4. 成績評価は、試験が5割、レポートが5割とします。

レポートは3回の予定。出席点の意味も持ちます。講義時にレポートの用紙を配り、宿題とします。用紙は、講義時以外には配布しません。用紙は、出題より1週目まで配布します。レポートの提出は2週間以内。講義時に直接手渡して提出するか、研究室ドアのレポート入れに提出してください。

5. シラバス (講義内容の予定)

レポート出題予定日

10月	8日	丹野	初回アンケート		
	22日	丹野	現代教育の見取り図(5×4のマトリクス)		第1回レポート配布
	29日	丹野	学校教育の病理(青年はどんな問題を悩んできたか)		↓
11月	12日	丹野	校内暴力(対教師暴力はどうエスカレートしたか)		回収
	19日	松島	非行(非行の心理)		第2回レポート配布
	26日	松島	いじめ(集団制裁から遊び型いじめへ)		↓
12月	3日	松島	不登校(学校に行きたいのに行けないのはなぜか)		回収
	10日	丹野	体罰・管理教育(体罰の是非, 管理のソフト化)		第3回レポート配布
	17日	丹野	世界の教育(なぜ学歴社会は加熱するのか)		↓
1月	7日	丹野	企業と大学(企業は大学に何を期待するのか)		回収
	14日	丹野	大学入試(大学入試の何が問題なのか)		
	21日	丹野	教養教育(一般教育は必要か無用か)		
	28日		(休講)		

◆ 初回アンケートの結果 現代教育論 丹野義彦 2013年 10月8日実施

●アンケート提出者数

	文I	文II	文III	理I	理II	理III	他	計
1年	65	69	41	79	51	5		310
2年	5	6	2	35	10	3		61
計	70	75	43	114	61	8		371

●『現代教育論』の講義で取り上げてもらいたい項目

(「ぜひ聞きたい」と「まあ聞きたい」の合計の%)

1. 体罰	8 0	19. 日本の教育史	5 6
2. いじめ	8 7	20. 教科書問題	5 4
3. 管理教育	6 3	21. 教育行政	5 3
4. 不登校	6 3	22. 教育思想・哲学	4 1
5. 障害者教育	5 1	23. 教育方法	6 7
6. 校内暴力	4 9	24. アメリカの教育	6 0
7. 性非行	6 1	25. ヨーロッパの教育	6 6
8. 薬物非行	5 3	26. アジアの教育	6 6
9. スチューデントアパシー	8 7		
10. 対人恐怖	6 7		
11. 抑うつ	5 7		
12. 摂食障害	4 1		
13. 学歴社会	9 3		
14. 大学入試過熱	8 1		
15. 大学の一般教育	7 1		
16. 大学後期教育	7 1		
17. 就職・企業と大学	7 3		
18. 大学院	7 3		

●「現代教育論」の受講動機

(「よく当てはまる」と「かなり当てはまる」の合計の%)

①自分が学んでみたい科目だったから・・・・・・・・・・	7 3
②総合科目の履修要件を満たす単位として必要だったから・・	5 7
③「科目紹介」の講義内容の紹介を読んで面白そうだったから	6 7
④この時間に興味をひく科目が他になかったから・・・・・・・・	6 7
⑤試験が簡単だと人から聞いたから・・・・・・・・・・	3 8
⑥講義の内容が知的に面白いと人から聞いたから・・・・・・・・	2 6
⑦評価の点数が高く、進振りに有利だと人から聞いたから・・	3 7
⑧授業の負担が少なく、楽に単位がとれると人から聞いたから	4 3
⑨オリパンフや雑誌などがすすめていたから・・・・・・・・	2 1

●教育学や教育心理学に関する質問紙調査を授業中に頻繁におこないます。目的は、①教育心理学や教育学の実際の研究がどのようなものかを実例で示す、②駒場キャンパスの対人関係や心理的適応を考え、学生生活をサポートする際の資料とするなどです。得られた結果はみなさんにお知らせします。調査は強制ではなく、ボランティアでお願いするものであり、授業の成績とは一切関係がありません。ぜひご協力ください。

●調査の結果のフィードバック

「現代教育論」の調査の結果について、以下の3つの方法で結果をお知らせします。

①集団フィードバック

この時間中に、プリントを用いて、簡単な結果をお知らせします。

②個人フィードバック

個人の調査結果について知りたい方は、今学期の後の時期に、個人的に結果をお知らせします。

場所は、2号館107Aの丹野研究室です。

時期は、未定ですので、あとで授業時間中にお知らせします。

③インターネットのホームページ

ホームページで集団の結果をお知らせします。アドレスは以下の通り。

<http://savage.c.u-tokyo.ac.jp/~tannoken>

●推薦図書（何種類もの教育書から選ぶ時の参考に、これが面白いという本をリストアップした。

ほとんどは教養学部図書館にそろえられています)

分野	書名	著者・编者	出版社	値段
教育病理	自己形成の心理学	高田・丹野・渡辺	川島書店	2200
	子どもの自分くずしと自分づくり	竹内常一	東大出版会	1400
	子どもの犯罪と死	山崎・芹沢	春秋社	2400
	学校崩壊	河上亮一	草思社	1500
非行概論	非行心理学入門	福島章	中公新書	560
	はいすくーる落書	多賀たか子	朝日文庫	470
暴力非行	暴力非行	菊池・堀内	学事出版	1200
	ブリキの勲章	能重真作	民衆社	1500
校内暴力	校内暴力事例の総合的研究	国立教育研究所	学事出版	1900
	校内暴力ー現代の子供を考える①	稲村ほか	共立出版	880
体罰	体罰	今橋盛勝+NHK	NHK出版協会	980
	体罰	沖原豊	第一法規	1500
いじめ	いじめー教室の病い	森田洋司ほか	金子書房	1300
	いじめを克服する	小林剛	有斐閣新書	760
不登校	学校に背を向ける子ども	河合洋	NHKブックス	780
	登校拒否は病気じゃない	奥地圭子	教育資料出版会	1400
	子供たちの復讐	本多勝一	朝日文庫	780
精神病理	認知臨床心理学入門	ドライデン	東大出版会	4000
	現代のエスプリ392号認知行動アプローチ	丹野義彦編	至文堂	1381
臨床心理学	心理臨床の基礎 1	下山晴彦	岩波書店	

	はじめて出会う心理学	長谷川ほか	有斐閣	1900
	臨床心理学キーワード	坂野雄二	有斐閣	1800
対人不安	対人恐怖	永井 徹	サイエンス社	
	人はなぜ恥ずかしがるのか	菅原健介	サイエンス社	
抑うつ	自己注目と抑うつの社会心理学	坂本真士	東大出版会	3500
	いやな気分よ さようなら	バーンズ	星和書店	3680
	オプティミストはなぜ成功するか	セリグマン	講談社文庫	620
アパシー	臨床心理学研究の理論と実際	下山晴彦	東大出版会	6800
国際教育	帰国子女	グッドマン	岩波書店	1500
	子供の異文化体験	箕浦康子	思索社	1500
大学入試	大学入試制度	佐々木享	大月書店	1200
	大学の入口と出口	天城勲編	サイマル出版会	1300
大学教育	大学一試練の時代	天野郁夫	UP選書	1400
	大学を問う	産経新聞社会部	新潮社	1200
	理工教育を問う-テコ立国が危うい	産経新聞社会部	新潮社	1200
アメリカの	アメリカの大学・ニッポンの大学	苅谷剛彦	玉川大学出版部	2472
大学	大学淘汰の時代	喜多村和之	中公新書	540

「駒場の授業紹介20選（東大新聞社）」より

授業紹介（現代教育論・丹野教官）

教育現場の様々な問題を、教育心理という切り口で捉えた授業。例えばいじめの問題なら、どのような生徒がいじめにあいやすいか、それがどういう形で顕在化してくるのかといったいじめの成立過程と現象の類型が示された上で、その対象が考察される。漠然と現象を追うのではなく、問題が客観的・一般的に分析されるので、明確な問題意識を持つことができる。学期中に4・5回簡単なレポートが課され、自分自身の体験に引き付けて教育問題を捉えていくことが要求される。自分自身が受けてきた教育、さらには大学以降受けていくであろう教育について再考する視点を得られるという点でも、お勧めの授業である。大教室で行われる授業のわりに騒然とした雰囲気はない。数回行われるアンケートの結果を個人的にフィードバックしてくれるなど、教官の熱意が感じられる授業でもある。

教材：とくになし

評価方法：レポートと学期末試験

